

坂本小学校だより

平成30年 2月 9日

第10号 文責 上森

今年の寒さと雪は想定外？

最近、会う人会う人が口をそろえて言われます。「今年は寒い！」「こんなに雪が降ることはなかった！」「…。」



坂本に住まわれている方でもそう感じていらっしゃるのであれば、私たちみたいによそから来ている者には、それ以上に寒さがこたえているということです。「とにかく寒い。」というより「冷たい。」「痛い。」といった方が適切な言い回しかもしれません。これまで、どれだけ寒くても日中の最高気温は、一桁台はありました。しかし、今年の1月の平均気温が五ヶ瀬町は0.3度と、日中の最高気温すら氷点下の日が結構ありました。鞍岡の真冬日が6日を越えたのも39年ぶりだという報道もされています。

とはいっても、確実に春の足音も聞こえて来ています。少しの晴れ間には、小鳥のさえずりも聞こえますし、木々を渡るメジロやエナガの群れも観ることができます。

この冬ほど春が待ち遠しい冬もなかつたような気がしています。



教化と感化

先日、新入児入学説明会を行いました。次年度の新入学予定児童は、現在のところ4名と少し寂しい気もしますが、人数にかかわらず、私たち職員は9年間の義務教育のスタートを最高の形でスタートさせるべく頑張っていく所存です。

説明会の際に、「教化と感化」について少し話させていただきました。時間の制約がある中でしたので、少し詳しく紹介したいと思います。

しつけや教育には「教化」と「感化」の二つの方法があるといわれています。

「教化」とは、「こういうときには、こうするのだ。」というように言葉や文字で、どちらかというと教え込むやり方で、学校の授業はほとんどが教化中心で行われています。

それに対して、「感化」とは、言葉や文字ではなく、モデルとなるような行動や状況を見せて、悟らせるというやり方で、学校でも行われていますが、特に家庭でのしつけの成否を左右する大事な方法です。

「教化」によるしつけや教育は、手っ取り早いというメリットはありますが、しばらくすると効果が薄れたり、忘れたりするなど身に付きにくいというデメリットがあります。

一方、「感化」によるしつけや教育は、時間がかかるというデメリットはありますが、一度身に付くと習慣化するなど定着するというメリットはあります。ただ、モデルが悪ければ逆効果になるという危険性もはらんでいます。また、「教化」だからといって、モデルが不必要なではなく、よいモデルに教えられる方が効果が上がることは間違ひありません。

学校では、「トイレのスリッパをきちんと並べましょう。」という指導をよくします。この指導にも、「教化」と「感化」を織り交ぜて指導します。言ってきかせる指導や張り紙、ポスターなどの「教化」と、教師がモデルとなり並べ方を示したり、教師が常にきれいな状態にしてあげて、それを見せたりする、いわゆる「感化」の指導をバランスよく行うことで、徐々に子どもたちに身に付いていきます。どちらか一方の指導では、なかなかうまくいきません。このように、この二つをバランスよく行なうことが大切です。

教化にしろ感化にしろ、しつけや指導する側



に相手への愛情がなく、しつけられる、指導される側に相手への信頼がなければ、しつけや指導は、虐待や反感、対親や教師への暴言や暴力を招く結果となります。

昨今、親がしつけと称して、子どもを虐待して死に至らしめた事件や学校で教師の注意に逆上した児童生徒が教師に対してナイフを振り回したり蹴り上げたりする事件が起っていますが、これなども自分の子どもに愛情をもてない親や、教師に信頼をおけない児童生徒が増えていることの結果でしょう。

このような事件を見ていますと、小さいときに親や教師などの大人からの愛情を十分に受け、相互の信頼関係の上でしつけられたり指導されたりすることの重要さを改めて考えさせられます。

教育の名言

すずっと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。

～金子みすゞ「わたしと小鳥とすずっと」より～
「どんな人にも、どんな子どもにも、動物にも植物にも、それぞれの個性があり、「みんなちがって、みんないい。」この詩には、今日の私たちが理想とする考えが、やさしい言葉で明瞭に示されていて感銘を受けるとともに、深く納得させられる。」

(宮川健郎)

「みんなちがって当たり前」ということを、まだまだ心から理解していない人間が多いのが現状ではないでしょうか？それが証拠に自分との違い（特に劣っている部分）をあえて見つけては、そこをえぐるように何度も何度も指摘するという、これもいじめのひとつの形です。「背が高かろうが低かろうが」「走るのが遅かろうが速かろうが」「肌の色が黒かろうが白かろうが」「スポーツが得意であろうが不得意であろうが」そんなことで、人間の価値は絶対に決まりません。そこが分かっている人間は、他人にそんなことを言うことなど思いもつきません



し、他人から言われてもまったく気にもならないという、まさに心（芯）のある人間だと言えるでしょう。そんな子どもたちをいっぱいいっぱい育てたいですね。

子どもたちの健闘を称えます。

◇宮日こども新聞「学園俳壇」掲載

1年 ○○ ○○ さん
6年 ○○ ○○ 君

◇宮日こども新聞「宮日文芸」掲載

6年 ○○ ○○ さん
6年 ○○ ○○ さん

おまけ 頭の体操

問題1 (渋谷幕張中学校入試問題)

右のマスの中に、1から9までの整数を1つずつ入れて、縦、横、斜めに足し算しても、3つの数の合計が同じになるようにしなさい。

※ 答えがお分かりになられたら、学校まで連絡ください。

「豆知識」

皆さん、お近くにカレンダーがあれば、それを見てみてください。その一部分に注目すると、面白いことが分かります。例えば、2月15日の「15」を見てください。

「15」の周りを囲む8つの数字がありますね。その8つの数字の平均は何でしょうか・・・？そうです。

「15」です。

7	8	9
14	15	16
21	22	23

ある一つの数字に注目して、その周りを囲む8つの数字の平均を求めるとき、必ず中心の数字になることがあります。順序よく、規則的に並んでいれば、カレンダーでなくても必ず同じことが言えます。中学生なら、なぜそうなるかの証明もできる理屈です。

豆知識でした。

